

# 『評価からはじめるまちづくり！2010』（第3グループ）

施策名	いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築		
対象	市民	成果指標	市民アンケート調査 「この1年間に何らかの学習をした」と答えた市民の割合
意図	いつでもどこでも学ぶことができる		
参加者	菅原悦造(11日のみ), 小松良太, 宮古智里, 紀室愛, 白石めぐみ(18日のみ)		

## グループワークⅠ

理由など	市民の評価
<p><b>ハード</b></p> <p>ハード④ 学習する場所がない(休日)① 図書館の自習スペースが充実している④ 学ぶスペースが少ない(公共の図書館)②</p> <p><b>ハード</b></p> <p>学習する日程が合わない① 働くことに必死で仕事以外に何かを学ぶことが困難②</p> <p><b>心理</b></p> <p>本当は学びたいと思っていても、初めて参加する講座などだと優季が出なくて参加しづらい② そもそも「学習」がなぜ必要か、どのように良い事があるかをアピールすべき③</p> <p><b>ネット活用</b></p> <p>ネットを活用した学びの場もあってよい② インターネットの利用②</p> <p><b>費用</b></p> <p>学習費用が高い① 受講料が(ものによっては)高い③</p> <p><b>制度</b></p> <p>公共施設の活用・条例の見直し① 公民館の使いみちを明確にする④ 公民館がいまいおしゃれな感じがしない① 施設運営の自由化・市民の意見を取り入れる①</p> <p><b>情報共有</b></p> <p>周知② 学習ニーズの把握② 施設等ハードなものはあるがイベントがあるのを知らない② どういところでも学習活動ができるのか情報が入りにくい、分からない②</p> <p><b>イベント</b></p> <p>イベント数③ 学習するメニューが少ない① 学びの成果を発揮できる機会をつくる④</p> <p>学習する相談員が身近にいない① 図書館や講座など、利用する人と利用しない人が分かれている②</p>	<p>2</p> <p>市の評価</p> <p>1</p>

## グループワークⅡ

効果	成果指標及び課題
	<p>身近に利用したいと思う学習施設があると思う市民の割合</p> <p><b>学びたい(意欲)</b></p> <p>イベントや講座等の情報が十分に得られていると感じる市民の割合</p> <p><b>施設の充実</b></p> <p><b>「知っている」こと</b></p> <p><b>【意欲】</b> 1) 学習することは自分にとって大切な、楽しい、と思う人の割合 2) この1年で何か「学びたい」と思った経験のある市民の割合 3) 高齢になっても学ぶ意欲を持ち続けるか 4) 実現させたい夢や目標はあるか 5) 最近何か学習を始めたという人の割合</p> <p><b>【イベント】</b> 1) 参加してみたいという講座があったか 2) イベントの満足度 3) 参加したい、あったらいいと思う講座は何か 4) イベント開催数 5) イベント参加者数</p> <p><b>【施設全般】</b> 1) 施設の整備状況(前年比の進捗率) 2) 身近に何らかの学習施設が〇個以上あると思う市民の割合 3) 身近に学習スペースがあると答えた人の割合</p> <p><b>【公共施設】</b> 1) 図書館の利用者数(学習目的) 2) 公民館などの施設利用者の年齢・性別を調べてみる 3) 図書館の利用者数 4) 公民館などの施設を利用したことがあるか</p> <p><b>【情報】</b> 1) 公民館が何に使われているか知っている人の割合 2) 市のHP(生涯学習に関わるもの)の閲覧数 3) 講座が開かれることをどこで知ったのか</p> <p><b>【時間】</b> 1) 学生→自主学習を1日どのぐらいやったか 2) 生涯学習などにかかる時間があるか</p> <p><b>【その他】</b> 1) 学習機会の実感数 2) 制度の緩和数</p>